

人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち 丹波高原文化の郷 ● 京丹波

# 京丹波

広報

No.18  
2007年  
4月15日発行

KYOTAMBA TOWN

## 京丹波の桜

丹波高原には、四季の始まりを告げるさわやかな風が吹き抜け、春のやわらかい日ざしを浴びて、町内各所で桜が開花。あでやかな薄紅色の花の競演は、人の心を引きつけてやみません。  
(和知中学校、市場)

### [特集①]

## 総合計画基本構想を策定

### [特集②]

## 平成19年度まちの予算

### CONTENTS

- 特集①・総合計画基本構想を策定…………… 2～5
- 特集②・平成19年度まちの予算…………… 6～9
- 地域医療対策審議会が答申…………… 10・11
- 職員の配置…………… 12・13
- フラッシュ TOWN NEWS 2007… 14～16

# 総合計画基本構想を策定

今後十年間のまちづくりの指針となる京丹波町総合計画の基本構想が町議会三月定例会で承認されました。この特集では、基本構想策定までの経過や同構想の概要などをお伝えします。

## 総合計画とは

京丹波町総合計画は、平成二十八年年度を目標年次とし、今後十年間のまちづくりの指針として定めるもので、基本構想、基本計画、実施計画で構成。このうちの基本構想を、地方自治法の規定により、議会の議決を経て策定しました。

基本構想には、京丹波町がこれから進めるまちづくりの基本的な方向や主要なプロジェクトを定めています。

基本構想の策定にあたっては、昨年八月十日に京丹波町総合計画審議会（谷勝彦会長、委員二十一人）に、松原茂樹町長から諮問。以来、同審議会は、全体会議や三部会（総務文教、産業建設、福祉厚生）の会議を通じて議論を重ねる一方で、須知高校生との「京丹波町のまちづくり共同研究会」（昨年十月十七日開催）を実施し、高校生ならではの視点でとらえた斬新なまちづくりアイデアを引き出しました。

こうして、同審議会の各部会で活発に出された各委員の思いや、高校生との共同研究会、さらには町が実施した住民アンケートの結果などを反映させながら、審議会で議論を重ね、基本構想がまとめられました。

## まちの将来目標像

## 人のぬくもりとふれあいがある躍動のまち 丹波高原文化の郷 ● 京丹波

**ま** ちづくりの中心に「人」を位置づけ、人びとの交流や活動によって町民が京丹波町に住むことの誇りと生きがいを持ち、町の価値を高めるとともに、元気な人、元気な地域、元気なまち、さらに飛躍するまち、すなわち「躍動するまち」の実現をめざします。

その中で生まれる京丹波町の文化を「丹波高原文化（生活、食、芸能、その他すべての地域資源）」とし、京丹波町固有の地域資源として売り出し、町の住民福祉の向上、町の経済的な発展につなげていくことをするものです。

**将** 来人口は、近年の動向がそのまま推移すると、ゆるやかな減少傾向が続くことが予測されます。

こうした中で、京丹波町では、畑川ダムなどの新規水源確保のほか、道路交通網の整備やJR山陰本線複線化、働く場の確保など今後の各種施策の展開

により、定住のための基盤が少しずつ整うこととなり、また、団塊の世代をはじめ、農村でのゆとりある生活を志向する人びとが数多く存在する中で、これらの人びとがこれからの居住地として選択する条件も整っています。

このようにまちづくりの進展による若者の流出の減少やU・J・ターン者の増加などを見込み、総合計画の目標年次である平成二十八年年度の人口（常住人口）は二万八千人、さらに将来は、おおむね二万三千人をめざします。

交流人口については、観光入込客数をみると、最近四、五年は約百万人前後で安定的に推移。週末などに居住する半定住型の人口なども増加傾向にあります。これらのことを踏まえ、将来目標像の達成に向けたまちづくりの展開により、目標年次の平成二十八年年度の交流人口は、現状より三〇％増の約百三十万人、将来的には、五〇％増の約百五十万人をめざします。

# 国内はもとより世界へもアピールできる京丹波町の魅力づくり

エコライフ、スローライフなどの再発見と実践による固有の丹波高原文化の創出

## 「丹波高原文化」の創出



地域固有の歴史文化  
美しい高原風景

高いブランド力  
高品質・多品目

## 住民自治と協働による諸活動



人づくり(教育・人材育成など)  
住民(人)が主役の諸活動と協働のシステム化

## 安心・快適な生活



全町CATV  
ネットワーク化

京都縦貫自動車道、国道9号、27号、173号、周回道路などの整備で、谷筋型から高原型の土地利用を誘導

交通

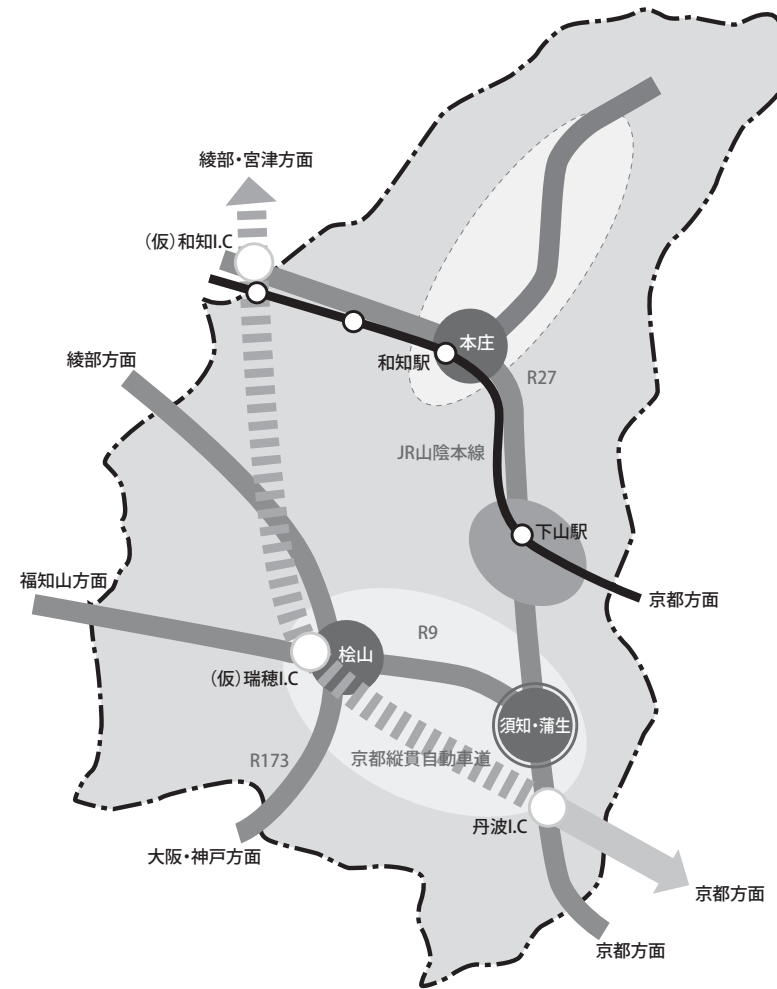
健康・福祉  
安心・安全

人権、保健・福祉・医療、防犯・防災など、生命・人権と財産を守る



# めざす地域構造

京丹波町がめざす地域構造は、これまで形成されてきた構造を基本としながら、次のような方向に強化・発展させていきます。



- 丹波高原ゾーン** 緑豊かな高原の雰囲気との調和を図りつつ、居住・商業・業務・観光・レクリエーションなど多様な都市活動が展開されるゾーン
- 丹波高原にぎわい交流エリア** 行政・商業・医療・福祉など多様な都市機能が立地するとともに、豊かな自然環境を生かした観光・レクリエーションなどにより多彩な交流が展開されるエリア
- 丹波高原エントランスエリア** 駅を中心に鉄道による丹波高原の玄関口としての展開を図っていくエリア
- 水と緑のふれあい交流エリア** 美しい自然環境の中で、人と自然、人と人がふれあう場として活用を図るゾーン
- 地域拠点** 住民の生活に密着した都市機能が集積する地域拠点
- 地域中心拠点** 町の中心的な拠点(核)
- 地域内連携・交流軸** 地域の生活や歴史・文化に密着した交流を促進し、各拠点との結びつきを深めつつ、町の一体性を高める道路による地域内連携・交流軸
- 広域連携・交流軸** 本町と周辺市町、京都、大阪などを相互に結び、多様な交流を育む広域連携・交流軸
- 鉄道・駅**

## 京丹波町全域で示す丹波高原ゾーンと環状軸による骨格構造の形成

地域全体を「丹波高原ゾーン」として位置づけられます。「丹波高原ゾーン」は、国道(九号、二七号、一七三号)、整備が進められている京都縦貫自動車道などの幹線道路によって環状に形成される交通軸で一体的なものになります。

## 環状軸上に町民サービスと都市との交流拠点となる「拠点」と「エリア」の配置

町の環状軸上に三つの地域拠点(須知・蒲生地区、松山地区、本庄地区)を配置。これらの地域拠点のうち、須知・蒲生地区を町の地域中心拠点(核)として位置づけます。

行政・商業・医療・福祉などの町民サービス機能や各種の交流機能などが数多く立地する須知・蒲生地区から松山地区にかけての地域を、京丹波町の中心的な機能の集積を図る「丹波高原にぎわい交流エリア」として位置づけられます。

北部の本庄地区を中心とし北部に広がる水・緑などの美しい自然が展開する地域を、豊かな環境の中で人と自然、人と人がふれあい交流する「水と緑のふれあい交流エリア」として位置づけられます。

## 環状軸上に鉄道利用型のエントランスエリアの創出

今後の京丹波町の発展を考慮すると、都市との交流活動がますます重要になります。交流活動は、従来は自動車交通による誘客だけに重点を置いて取り組んできましたが、今後は、団塊の世代を中心に鉄道利用者も増加していくことが予想されることから、鉄道を活用した誘客戦略を展開します。

京都方面から「丹波高原文化の郷」への玄関口となる下山駅とその周辺を「丹波高原エントランスエリア」として位置づけ、丹波高原への玄関口にふさわしい地域としての整備を図ります。ただし、地形が起伏に富んでいるため、一体的な地域としての面的な展開は難しいことから、国道二七号バイパスの沿線地域などを中心に高原地域らしい機能の充実や景観づくり、町民の健康保養対策などを進めます。

和知駅とその周辺は、鉄道利用者自動車利用者いずれもが集うことのできる地域拠点、さらには「水と緑の交流エリア」の核としてふさわしい地域としての整備を図ります。

# 主要プロジェクト

## 「丹波高原文化の郷」の創造・発信



京丹波町には、丹波ブランドに代表されるように、古くから京の都との強い結びつきの中で培われ、京の生活文化・食文化と密接に結びついた、実体と歴史のある「丹波高原文化」が息づいています。これを内外に「丹波高原文化の郷」として発信していくため、次のような取り組みを行います。

- 丹波高原四季の顔づくり  
丹波高原文化のPR／高原らしさを醸し出す景観づくり
- 丹波高原都市の顔づくり  
丹波高原都市の中心市街地づくり／玄関ロビーの形成／地域産業の発展と美しい国土づくり
- 丹波高原食文化の第6次産業化  
地域特産物などの生産の維持・発展拡大／農林産物加工特産品の企画・開発／販売経路の拡大と戦略的販売の促進／生産加工流通・販売の連携強化による「京丹波高原ブランド」の創出
- 京丹波高原ブランドの推進体制の整備

## ぐるりと結ぶ「丹波高原文化の郷」周遊ルートの形成



合併し京丹波町となったことで、旧3町それぞれではつくり出せなかった「丹波高原文化」を大きく打ち出すことができるようになりました。そのようなか中で、町内を周回できるルートの整備は、町民の生活利便性と町の一体性の醸成、また、観光面でも重要な位置を占めています。

- 丹波高原四季の顔づくり  
丹波高原文化のPR／高原らしさを醸し出す景観づくり
- 丹波高原都市の顔づくり  
丹波高原都市の中心市街地づくり／玄関ロビーの形成／地域産業の発展と美しい国土づくり
- 丹波高原食文化の第6次産業化  
地域特産物などの生産の維持・発展拡大／農林産物加工特産品の企画・開発／販売経路の拡大と戦略的販売の促進／生産加工流通・販売の連携強化による「京丹波高原ブランド」の創出
- 京丹波高原ブランドの推進体制の整備

## 人がつながり、丹波高原にひろがる元気なまちづくり



だれもが京丹波町に誇りと愛着を感じ、町政や地域づくりにかわかりを持ち、町民としての一体感を意識しながら生活ができる地域づくりを進めます。そして、町民が自ら自信と誇りを持って健康で心豊かに生活できるよう、人材の育成をはじめ、「コミュニケーション」基盤の充実と町民のふれあい・参加・協働の機会拡充を図ります。

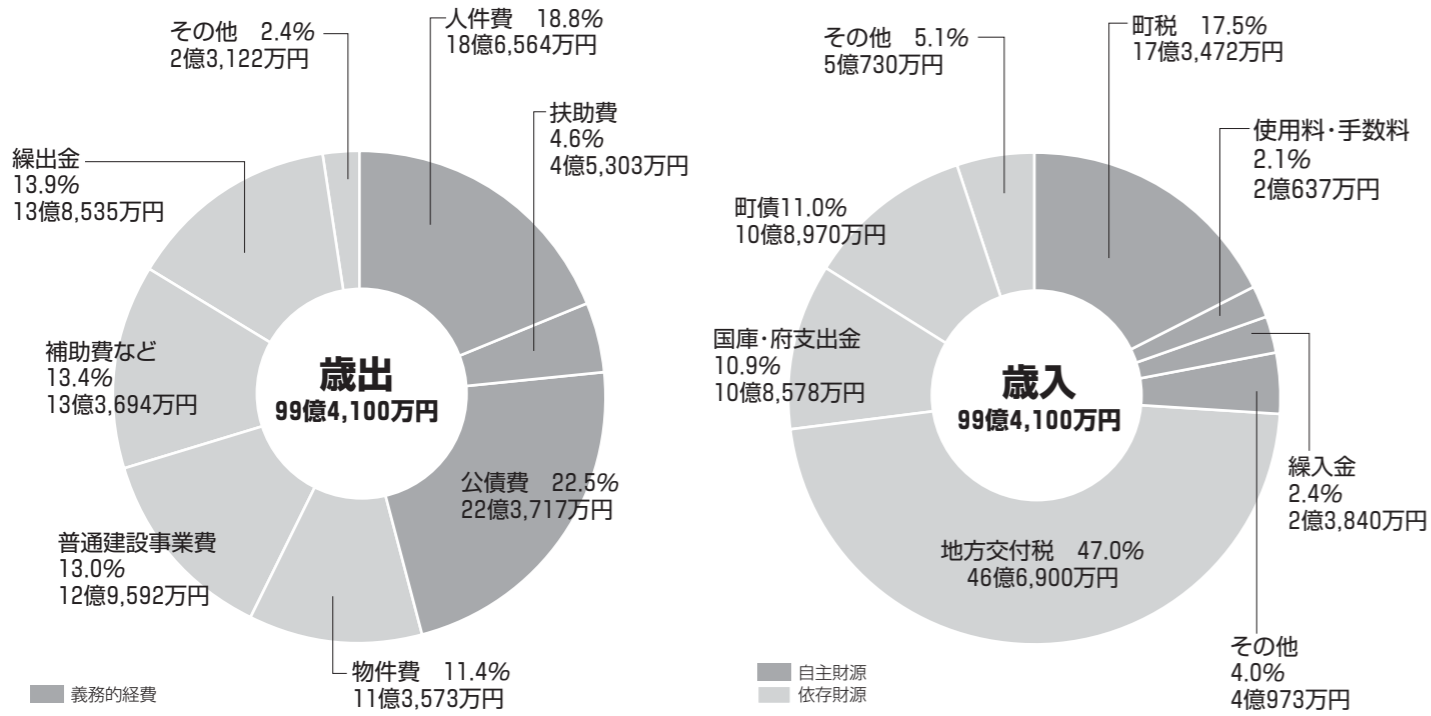
- 企画・マネジメント組織づくり  
企画・マネジメントに携わるチームの編成／協働のまちづくりの展開／次代を担う人づくり
- 情報ネットワークづくり  
情報ネットワークの整備による町の一体化／情報共有によるまちづくりの推進
- 定住環境づくり  
水資源開発による安定的な定住基盤の確立／就業環境の強化／定住のための受け入れ態勢づくり／健康・福祉のまちの確立／安心・安全な暮らしの確保

# 平成19年度まちの予算

## 総額 193億7,800万円

まちづくりの基本となる平成19年度当初予算が、京丹波町議会3月定例会で可決成立しました。総額は193億7,826万円（1万円未満四捨五入、以下同じ。財産区会計を除く）で、内訳は、一般会計が99億4,100万円、特別会計が94億3,726万円。

一般会計は前年度に比べ0.9%減。公債費繰上償還に2億円を計上したほか、事務事業の見直しによる経費削減に努め、安心・安全のまちづくりを進める施策に重点配分しました。



### 一般会計 歳入

歳入には、町税収入など町が自らの力で収入できるお金（自主財源）と、国や府から交付されたり、割り当てられたりするお金（依存財源）があります。左のグラフのとおり、自主財源として見込めるのは全体の二六％で、残りの七四％は地方交付税や国庫・府支出金などの依存財源となっています。

国や府への依存率が高い本町にとって、近年、国が進める地方行財政改革の影響は大きく、財源の確保は年々厳しさを増していくことが予想されます。

こうした情勢の中、今年度の予算編成にあたっては、事務事業の総点検・見直しにより経費削減を図りつつも、町民の皆様へのニーズにこたえ、安心・安全で、快適な暮らしを確保するため、前年度の推移から見込める収入をほぼ満額計上して財源を確保しています。

自主財源の柱である町税収入は、一七億三、四七二万円を計上。国の三位一体の改革のひとつ「税源移譲」により、前年度に比べ一七・二％増の大幅な増収を見込んでいます。

一方、依存財源では、最大の収入源である地方交付税を前年度比一％増の四六億六、九〇〇万円計上したほか、国庫・府支出金や町債（事業実施のための借入金）などを

グラフのとおり見込んでいます。

### 一般会計 歳出

人件費や扶助費（医療費助成などの経費）、公債費（事業実施のため、これまでに借り入れたお金の返済金）は、「義務的経費」と呼ばれ、支出が義務づけられており、任意に削減しにくい経費です。グラフをみると義務的経費は四五・九％、歳出全体の半分近くを占め、町の財政状況はゆとりのない状態にあります。

人件費は、特別職や管理職手当の減額などにより、前年度比四・四％減の一八億六、五六四万円を計上。

一方、扶助費は同八・七％増の四億五、三〇三万円、公債費は同六・一％増の二億三、七一七万円を計上し、そのうち繰上償還（返済期間が来る前に返済すること）として二億円を計上しています。

扶助費は高齢化の影響を受けて今後も増加傾向にあり、また、公債費についても歳出に占める割合が、今後も高水準で推移する見込みです。

消費的な経費である物件費については、経常的な事務経費の見直しに努め、前年度に比べ約一億九、〇〇〇万円を削減。このほか、特別会計への繰出金、道路や施設の整備に使う普通建設事業費などはグラフのとおりです。

今後も限られた財源の中で住民サービスの向上を図るため、事務事業の見直しや経常経費の節減に努めていきます。

### 特別会計・企業会計

■国民健康保険事業  
事業勘定では、保険給付費に一〇億三、八三九万円（歳出全体の約六〇％）を計上。

■老人保健  
医療給付費に二〇億六、〇八三万円。前年度に比べ四億九、三七三万円の減。

■介護保険事業  
事業勘定では、保険給付費に一四億一、〇〇〇万円を計上（歳出全体の約九六％）。サービス事業勘定では、地域包括支援センターを拠点に居宅介護支援事業の推進を図ります。

■水道事業  
丹波・瑞穂地区では、新田配水池の設置、戸津川区の給水量不足解消のための加圧ポンプ施設・配水池設置など。和知地区では、北部浄水場施設の整備（仏主区）、配水管敷設（小畑区）などを計画しています。

■下水道事業  
施設整備では下山浄化センターの二期工事を計画。集水処理区域を除く区域を対象とした浄化槽市町村整備推進事業に四、六〇三万円。

■町営バス運行事業  
中型バス（低床型）一台の購入に一、五八六万円を計上。

■瑞穂病院事業会計  
収益的収支は八億二、八八九万円。うち医業収益を六億七、六五五万円見込んでいます。企業債償還に二、一四八万円を計上しています。

### 会計別当初予算額

会計名	本年度	前年度	比較
一般会計	99億4,100万円	100億2,800万円	△ 8,700万円
特別会計・企業会計	94億3,726万円	99億 129万円	△ 4億6,403万円
国民健康保険事業（事業勘定）	17億2,963万円	17億2,626万円	337万円
国民健康保険事業（質美診療所）	1,724万円	2,110万円	△ 386万円
国民健康保険事業（和知診療所）	3億6,170万円	3億7,789万円	△ 1,619万円
国民健康保険事業（和知歯科）	7,113万円	7,333万円	△ 220万円
老人保健	21億 214万円	26億 765万円	△ 5億 551万円
介護保険事業（事業勘定）	14億7,235万円	14億4,470万円	2,765万円
介護保険事業（サービス）	902万円	2,050万円	△ 1,148万円
下水道事業	9億9,000万円	9億3,100万円	5,900万円
水道事業	17億1,970万円	16億8,800万円	3,170万円
町営バス運行事業	1億 715万円	1億5,356万円	△ 4,641万円
土地取得	42万円	8万円	34万円
育英資金給付事業	341万円	437万円	△ 96万円
瑞穂病院	8億5,337万円	8億5,285万円	52万円



衛生費

10億8,466万円

各種健(検)診事業・健康相談・健康増進など	5,574万円
予防接種事業	2,004万円
環境保全対策	233万円
南丹病院組合負担金	1,719万円
町立医療施設の運営補助	2億6,705万円
船井郡衛生管理組合分担金	2億8,407万円



農林水産業費

11億7,007万円

中山間地域直接支払事業(傾斜農地への交付金)	1億1,427万円
水田農業構造改革対策推進事業 (特産物作付け、豆類産地化の奨励など)	2,340万円
農地・水・環境保全向上対策事業 (集落営農など地域ぐるみ営農活動を支援)	949万円
丹波食彩の工房・瑞穂マスターズハウス運営委託	2,540万円
畜産振興対策事業(ストックヤードの設置など)	2,218万円
南丹地区農用地総合整備事業	1億1,270万円
中山間ふるさと緊急農道整備事業 (農道安栖里坂原線工事など)	3,777万円
農村情報施設管理(CATV・有線ファックス)	7,179万円
林業振興対策事業	2,863万円
有害鳥獣対策事業	2,037万円
森林管理道開設事業(和知林道峰線の継続開設)	9,948万円



消防費

3億5,926万円

京都中部広域消防組合負担金	2億3,127万円
防火水槽整備事業	3,260万円
消防団活動運営事業	7,657万円

一般会計

99億4,100万円の主な使いみち

(1万円未満四捨五入)



商工費

1億514万円

商工業振興事業 (商工会小規模事業経営支援など)	2,993万円
質志鍾乳洞公園・特産館「和」・わち山野草の森・農林業体験公園 「わちアグリパーク」などの運営委託	4,518万円
都市・農村交流体験事業	119万円



土木費

10億5,653万円

道路新設改良事業	4億5,555万円
ダム関連対策事業(畑川ダム整備負担金など)	1億 683万円
都市公園整備事業	4,843万円
公営住宅建設事業(三ノ宮住宅舗装整備)	3,570万円



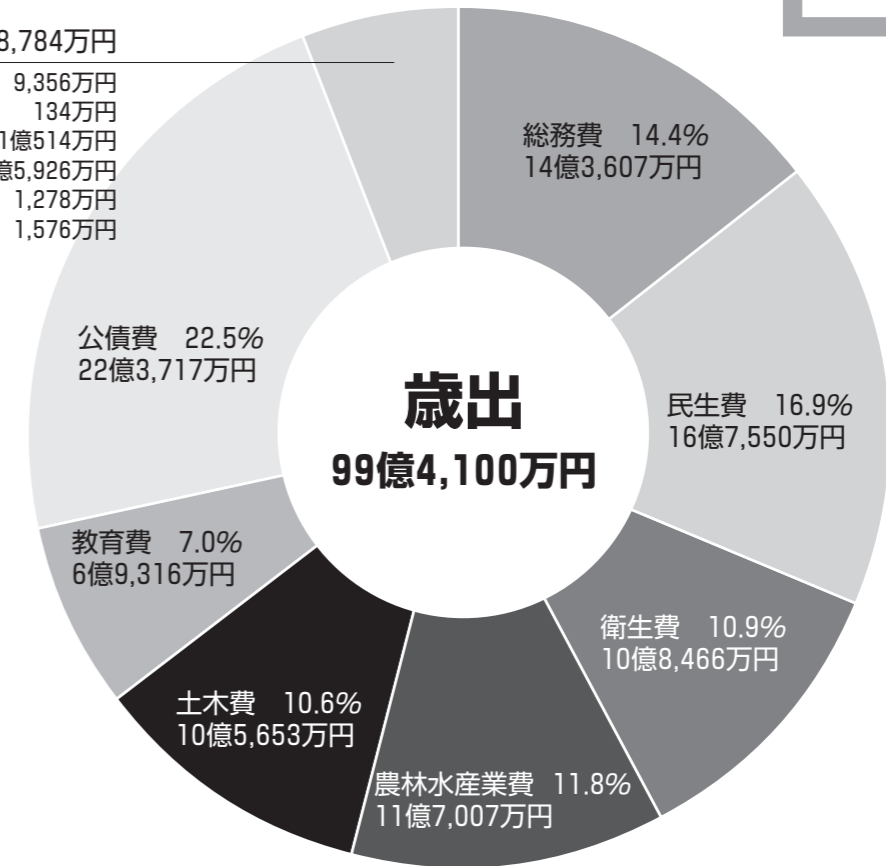
教育費

6億9,316万円

小・中学校の管理運営	1億3,640万円
学校評価システム構築事業	388万円
小学校施設耐震改修事業(下山小耐震設計業務)	887万円
社会教育団体育成事業	469万円
生涯スポーツ振興・体育団体育成	623万円
学校給食事業	9,401万円

一般会計  
目的別  
内訳

その他	5.9%	5億8,784万円
・議会費	9,356万円	
・労働費	134万円	
・商工費	1億514万円	
・消防費	3億5,926万円	
・災害復旧費	1,278万円	
・諸支出金・予備費	1,576万円	



総務費

14億3,607万円

行政改革の推進(行政改革推進委員会の経費)	33万円
広報広聴活動事業(広報京丹波の発行など)	541万円
山陰本線京都・園部間複線化事業補助金	8,167万円
地域振興事業 (自治振興補助金、地域活動助成調査事業など)	410万円
行政情報システムの運用管理	3,597万円
有線テレビ(CATV)整備事業(調査・設計業務)	3,487万円
人権啓発・男女共同参画の推進	559万円



民生費

16億7,550万円

障害者自立支援事業 (施設入所、居宅支援、入所者医療など)	1億3,786万円
老人医療事業(医療助成)	3,122万円
後期高齢者医療広域連合事務事業	771万円
在宅高齢者等生活支援事業 (外出支援、食の自立支援など)	2,596万円
すこやか子育て医療費助成 (中学生までの医療費助成)	3,578万円
すこやか子育て祝金(出産祝金)	900万円
チャイルドシート購入助成	49万円
保育施設整備事業 (瑞穂地区の保育施設整備の調査費)	100万円

# 医療施設の今後の運営と 地域医療のあり方を提言

京丹波町地域医療対策審議会（後藤敏和会長、委員十人）が、三月三十日、町立医療施設のあり方と京丹波町における地域医療などのあり方について、松原茂樹町長に答申しました。

同審議会は、昨年八月二十一日に松原町長から諮問を受けて以来、八回の会合を通じて、町立医療施設の現状と課題の分析を行い、各施設の運営に関する今後の方向性や地域医療のあり方について審議を重ねてきました。答申書の概要は次のとおりです。



松原町長(右)に答申書を手渡す後藤会長(中央)と寺坂副会長(役場町長室)

## 医療施設の経営改善と今後の運営について

同審議会では、近年の医療を取り巻く状況や町財政の厳しい現状を踏まえつつ、あらゆる角度から将来のあるべき姿について審議を重ねてきた結果、現在の四施設を存続させていくことについては合意を得られましたが、町立医療施設のあり方にかかる今後の方向性については、審議会の総意としての明確な方針を打ち出すには至りませんでした。

同審議会は各委員の意見を重く受け止め、その集約は困難であるとの判断から、答申書にはこれまでの審議の中で出された意見の要旨が次のとおり記されています。

### 【現診療体制での経営改善】

現在の診療体制において、地域住民のニーズを踏まえた経営改善の努力をすべきである。

### 【療養病床の存続】

国の医療制度改革による療養病床削減の方針が示されたとはいえ、老健施設や在宅への移行にはさまざまな課題があり、早期に受け皿を整備することは困難。療養を必要とする患者の増加も見込まれる状況にあっては、今後も療養病床の存続が必要である。

### 【病床の再編】

診療報酬の引き下げによる減収や町財政の実情を踏まえれば、抜本的な経営改善を図らなければならない。四施設を存続させていくためにも、各施設の機能や役割を分担した病床の再編に取り組むべきである。

### 【運営形態の検討】

中小病院の廃業が懸念されている昨今、自治体が病院を抱えること自体に限界がきているのではないかと。将来に明るい展望が見出せない以上、売却も含めて民間への経営移譲を検討すべきである。

### 【一般会計繰入基準の明確化】

瑞穂病院(公営企業)にあつては、赤字補てん的な考へに基づき一般会計からの繰り入れからは脱却することが必要。企業会計の特質も精査し、繰入金の上限を定めるなど一定の算出基準を設けること。

### 【その他】

- (一) 職員の経営意識の醸成
- (二) 町立医療施設の利用推進
- (三) 医師・看護師の確保
- (四) 院外処方方の検討

## 地域医療などの今後のあり方について

高齢化社会の急速な進展を踏まえ、今後取り組むべき方向性として、医療と保健福祉の連携を基本に次の三点が示されました。

### 【予防を重視した保健医療の推進】

これからの長寿社会を支えていくため、高齢者の健康づくりや介護予防をさらに推進しつつ、生活習慣病の予防を重視した健診・保健指導などの充実に努めること。

### 【在宅療養支援のための体制整備】

国の療養病床削減の方針を踏まえ、在宅療養が適切かつ円滑に実施されるよう行政、医療機関、老健施設、介護サービス事業者などが連携した体制づくりを進めること。

### 【地域包括医療(ケア)の推進】

住民の安心・信頼を確保するためには適切な医療の提供はもとより、健康の保持増進から介護に至るまで安定したサービスを提供できる体制を整備することが必要。将来の超高齢化社会を見据えた医療と保健福祉の一体的なサービスの提供に努め、地域包括支援センターと連携したケアシステムのいっそうの充実に努めること。

## 町立医療施設の概要



質美診療所

- 昭和16年／質美診療所を開設
- 平成12年／現在の場所に移転新築して開設
- 診療科／内科、小児科

### 《現状と課題》

外来患者数は平成15年度以降減少傾向で、18年度以降は3,000人前後で推移する見込み。過去3年の決算状況は、外来収入が2,000万円台で推移し、繰入金を上回る剰余金を生じていることから、一般会計への影響は極めて小さい状況ですが、医師不足の中で、現在の診療体制を今後も維持できるかが大きな課題です。今後も診療を継続していくためには瑞穂病院に統合し、安定した診療体制の整備を図ることが必要です。



和知歯科診療所

- 昭和49年／和知診療所の診療科として開設
- 昭和61年／和知診療所が病院に昇格した際、独立して開業

### 《現状と課題》

平成17年度の外来患者数は延べ7,926人(前年度比約400人減)です。決算状況は、その他を含めた医業収入が約6,000万円。平成19年度以降は約5,300万円程度で推移するものと見込まれています。また、一般会計繰入金は平成19年度以降も増え続け、1,300～1,500万円前後の負担が続く見通しとなっています。

一方、医業収入に占める人件費の割合も年々増加し、平成19年度以降は100%を超える見込み。経費の削減はもとより、増収を図る経営努力が求められています。



瑞穂病院

- 昭和30年／松山病院(病床数30床)として開設
- 昭和37年／瑞穂病院に改称
- 平成17年／移転新築し、現在の瑞穂病院を開設
- 診療科／内科、外科、整形外科、小児科
- 病床数／47床(一般病床30床、療養病床17床)

### 《現状と課題》

平成17年度の入院・外来患者数は、延べ5万2,776人(前年度比4,158人増)。利用率は、一般病床が91%、療養病床が90%です。

決算状況は、医業外収益を含めた病院事業収益は約8億800万円。過去3年いずれも単年度で1,600～3,600万円の黒字を計上していますが、これは町一般会計から1億2,000万円の運営補助によるもので、平成18年度決算では、診療報酬の引き下げによる多額の減収が見込まれています。一方、企業債(施設整備のために借り入れたお金)の返済も一般会計の負担に依存せざるを得ない中で、返済が本格化する平成21年度以降も視野に入れた、中・長期的な経営改善策を講じる必要があります。



和知診療所

- 昭和26年／組合立の診療所として開設
- 昭和61年／病院に昇格
- 平成16年／将来の施設・運営のあり方を検討した結果、和知診療所に改称。改修工事を経て現在に至る
- 診療科／内科、外科、整形外科
- 病床数／19床(一般病床7床、療養病床12床)

### 《現状と課題》

平成17年度の外来・入院患者数は延べ25,717人(前年度比987人増)、利用率は一般病床が99%、療養病床が66%です。決算状況は、医業外収入を含めた病院事業収入は約3億7,300万円。今後は診療報酬の引き下げによる多額の減収が見込まれ、一般会計から約7,500～9,000万円の繰り入れを必要とすることが見込まれています。

# 職員の配置

4月1日付け、人事異動を行い、職員の配置は次のとおりになりました。

(嘱託職員など除く。敬称略)

会計管理者／藤田義幸  
 参事(開発担当)／田淵敬治

## 議会事務局

事務局 長／伊藤康彦  
 庶務係 長／西山民子  
 山内圭司

## 総務課

課 長／谷俊明  
 主 幹／中尾達也  
 課 長 補 佐／岡本英子▽堂本光浩  
 △松山征義  
 総 務 係 長／田中晋雄  
 人事秘書係長／岡本明美  
 人事秘書係主任／太田創一  
 財政 係 長／竹内健  
 消防防災係長／片山健  
 水間和美▽野々口慶司  
 △山内善史▽石田武史  
 △豊嶋裕美  
 △片山加奈(新規採用)  
 △山内明宏(京都府派遣)

## 企画情報課

課 長／田端耕喜  
 課 長 補 佐／稲葉出(兼人権政策係長)  
 △久木寿一(兼総合企画係長)  
 広報情報係長／藤井雅文  
 交通対策係長／小谷誠之  
 野々口清仁▽小松聖人  
 △四方妃佐子▽山下稔  
 △松下由美▽小原直也  
 △田畑昭彦

## 【瑞穂情報センター】

主 幹(所長)／伴田邦雄  
 堀内浩二▽原澤恒  
 △北村和正▽西村公貴  
 △山内美幸

## 【バス事業所】

係 長／梅垣晋(瑞穂バス事業所)  
 三好稔(丹波バス事業所)  
 △河谷勝治(和知バス事業所)

商工観光係長／片山利枝  
 企業立地推進係長／中川豊  
 栗林英治▽保田志信  
 △橋本賢二▽徳島康善  
 △山内敏史▽片山晴子  
 △竹村洋▽西山宏明

## 土木建築課

課 長 補 佐／松村康弘  
 課 長 補 佐／畑中協治  
 △湊史明(兼ダム推進係長)  
 △十倉隆英(兼土木係長)  
 管 理 係 長／榎川諭  
 建 築 係 長／新江田泰  
 田尻穂▽西野菜保子  
 △井上晴之▽山内和浩  
 △荻野雅則▽中村昭夫  
 △山下徹

## 水道課

課 長 補 佐／藤田真  
 課 長 補 佐／上原守  
 課 長 補 佐／榎川篤▽山鳥強  
 上水道係長(庶務担当)／村山英紀  
 上水道係長(事業担当)／船越誠  
 下水道係長(庶務担当)／木南哲也  
 下水道係長(事業担当)／増谷隆男  
 梅垣延男▽田中美智子  
 △上林太志▽岩崎勝也  
 △宇野浩史▽小山潤▽村田弘之  
 △吉田和晃▽秋山卓弘

## 会計室

室 長／岡本佐登美  
 出 納 係 長／樹山敬子  
 島文字

## 瑞穂支所

支 所 長／上田進  
 【地域総務室】  
 室 長／野村雅浩(兼総務担当主任)  
 戸籍住民担当主任／松下すみ子  
 税務収納担当主任／塩田誠  
 友金久美子▽上西貴幸

## 税務課

課 長 補 佐／岩田恵一  
 主 幹／福井彰一郎  
 課 長 補 佐／吉田正  
 賦 課 係 長／中井伸幸  
 徴 収 係 長／山田和志  
 山田實▽梅原千里  
 △小林篤史▽下村邦喜  
 △軽尾圭造  
 △伴田裕章(新規採用)

## 住民課

課 長 補 佐／岩崎弘一  
 主 幹／朝倉富雄  
 課 長 補 佐／一谷寛  
 戸籍住民係長／上林潤子  
 保険年金係長／上西睦美  
 環境推進係長／堀友輔  
 山内智美▽光枝三千代  
 △原澤洋▽福本奈み子  
 △上原康宏▽井口理恵

## 保健福祉課

課 長 補 佐／野間広和  
 課 長 補 佐／中尾裕之▽木下浩昭  
 △古谷千津子  
 健康推進係長(事務担当)／谷口誠  
 健康推進係長(技術担当)／上原美智子  
 福 祉 係 長／川島勇人  
 介護保険係長／大西義弘  
 包括支援センター主任／井上祐子  
 吉田敦美▽大西孝治▽吉田聡  
 △並河直樹▽正田智久  
 △久保元真一▽島田恵子  
 △堀道枝▽西村美智子  
 △保田智子▽高橋麻衣子  
 △東由加里(新規採用)

## 子育て支援課

課 長 補 佐／山田由美子  
 課 長 補 佐／田中博典(兼支援係長)  
 山本桂市

【地域保健福祉室】  
 室 長／友金輝幸▽細野江梨子  
 室 長／谷口いつみ(兼福祉担当主任)  
 山下泰▽西村明美▽中川早苗  
 △保ヶ部直子

## 【地域振興室】

室 長／坂本優(兼土木担当主任)  
 農林担当主任／八木敏和  
 西田勉▽松谷洋一

## 和知支所

支 所 長／田井勲  
 【地域総務室】  
 室 長／片山長男(兼総務担当主任)  
 戸籍住民担当主任／山根美智代(兼税務収納担当主任)  
 長谷川真▽堀孝子  
 △村山奈央▽山西博美  
 △羽生田真由▽岡本淳  
 【地域保健福祉室】  
 室 長／稲葉文男(兼福祉担当主任)  
 保健担当主任／永海貴子  
 藤田むつみ▽金江美和  
 △原田結城

## 【地域振興室】

室 長／梅原昇治(兼農林担当主任)  
 土木担当主任／大西弘一  
 山本俊夫▽山口知哉

## 教育委員会

教 育 次 長／長谷川博文  
 主 幹／寺井行雄  
 学校教育課長／高畑利彦  
 学校教育係長／豊嶋浩史  
 総 務 係 長／谷口玲子  
 保田利和▽堀敬之  
 △藤井知宝▽大秦学  
 社会教育課長／岡本芳明  
 社会教育係長／西田毅  
 文化財係長／山崎哲夫  
 山内秀文▽十倉克也  
 【瑞穂分室】  
 室 長／今西政治  
 主 任／永武幸子

## 【上豊田保育所】

所 長 補 佐／上田知宏  
 主 任／北村世津子  
 任／湊直美▽軽尾早苗  
 村岡和恵▽小室みさよ  
 △山内幸子▽前村こず枝  
 △久保元恵子▽井上亜希子  
 △大秦優子▽岸本沙奈美  
 △佐々谷美穂(新規採用)

## 【上豊田保育所下山分園】

所 長 補 佐／松岡知子  
 任／上田千恵子▽山鳥ゆり  
 野口加代里▽正田ゆかり

## 【椋山保育所】

所 長 補 佐／山内善博  
 主 任／津田知美  
 任／真野照美▽北村恵里子  
 細見ルミ▽下村秀美  
 △山内里佳子  
 △谷口絵里(新規採用)

## 【わちんじゅ】

所 長 補 佐／大槻澄子  
 任／東直美  
 任／西田美代子  
 尾池奈緒美▽越川憲子  
 △小室由紀▽片山奈穂  
 △中西靖浩(新規採用)

## 地域医療課

課 長 補 佐／下伊豆かおり  
 課 長 補 佐／樹山敏彦(兼医療係長)  
 【瑞穂病院】  
 院 長 補 佐／佐藤秀一郎  
 副 院 長 補 佐／垣田秀治  
 外 科 部 長 補 佐／前田武昌  
 山内敏行(新規採用、放射線技師)  
 △腰山節子(薬局長)  
 △松村陽子(薬局師)  
 △井爪直美(理学療法士)  
 事 務 長 補 佐／藤田正則  
 任／前田昌成  
 任／石田美穂  
 山田泰行▽芦谷真由美

## 【和知分室】

室 長／野間隆  
 高屋敦彦

## 【須知幼稚園】

教 園 長 補 佐／杉尾富美子  
 頭／谷久美子  
 任／西村喜代美  
 浦井美紀▽湊玲奈▽小林和子  
 △山口利一

## 【小・中学校】

村山美智子(丹波ひかり小)  
 △荒井利子(竹野小)  
 △森下満(松山小)  
 △山田知恵子(三ノ宮小)  
 △大西定子(質美小)  
 △和田隆(浦生野中)  
 △北井邦江(瑞穂中)

## 【丹波給食センター】

水口さき子▽小林富美子  
 藤田妙子

## 【和知給食センター】

▽森田一三(瑞穂支所長)  
 △竹内美代子(松山保育所長)  
 △土井たかし(和知診療所長)  
 △原田寿賀美(税務課主幹)  
 △榎本藤雄(住民課主幹)  
 △和久田正八(和知支所地域総務室長)  
 △上田喜久子(松山保育所所長補佐兼主任)  
 △山口栄子(和知給食センター主任)  
 △野間光男(産業振興課主任、和知町ふるさと振興センター派遣)  
 △中島照夫(同主査・同)

## ■退職

▽谷垣とみ子(瑞穂支所地域振興室主査)  
 △村山真弓(須知幼稚園養護教諭)  
 △吉田正幸(瑞穂病院放射線技師)  
 △足立圭司(和知歯科診療所医師)  
 △澤田鈴子(和知診療所看護師)  
 △山本智之(瑞穂支所地域振興室主事)

## 【和知診療所】

長／中村泰也(新規採用)  
 宮崎聡(医師)  
 △諫本慶春(放射線技師)  
 △大田有次(理学療法士)  
 △村上康司(薬剤師)

## 事務所

長／片山淳  
 任／四方晴美  
 出野文隆  
 看護師 長／今海美代子  
 中村幸子▽坂本恵▽竹内秀子  
 △川勝里美▽大西初美  
 △白波瀬小百合▽大西好美  
 △小川和代▽石原範子

## 【和知歯科診療所】

長／坂下敦宏  
 舟木健(新規採用、医師)  
 △片山昭子(歯科衛生士)  
 △中島早苗(同)  
 △堀太(歯科技工士)  
 任／山内秀子

## 産業振興課

課 長 補 佐／山田進  
 課 長 補 佐／西田明範▽山森英一  
 △山田洋之(兼農林事業係長、事業担当)  
 △長澤誠(兼農林事業係長、畜産担当)  
 農林振興係長／中野竜一

### 食彩の工房と特産館「和」の指定管理者決まる

丹波食彩の工房(高岡)と特産館「和」(坂原)の指定管理者が、町議会三月定例会で決まりました。

指定管理者制度は、公共施設の管理運営に民間の能力を活用し、経費の削減や事業の効率化を図ることを目的とした制度。丹波食彩の工房の指定管理者の選定にあたっては、公募を行い、応募者の中から審査により「丹波清光ファームおよび株式会社いつつ」を選びました。

一方、特産館「和」の指定管理者には「財団法人和知ふるさと振興センター」を選定。同施設の管理運営に関しては、同施設が和知地区の観光の拠点施設であることや、地元で密着した管理者が管理運営を行うことで、これまでの実績や蓄積されたノウハウをもとに継続したサービスの向上が図れることなど、総合的に判断した結果、指定管理者を公募せず、これまで町が管理委託してきた同センターに決めました。いずれも四月一日から指定管理者として施設の管理運営にあたっていきます。



丹波食彩の工房



特産館「和」(道の駅「和」内)

### 三ノ宮地域で春まつり盛大に

「三ノ宮ふれあい春まつり」が三月二十四日、町営住宅「三ノ宮住宅団地」の敷地内などで行われました。

このイベントは、三ノ宮地域振興会や同地域内の事業所や団体などがこのほど立ち上げた「三ノ宮ふれあい春まつり実行委員会」(田畑修一実行委員長)が、地域活性化の一助にしようと初めて開催。この日はあいにくの雨模様となりましたが、大勢の地域住民が訪れ、三ノ宮小児童の鼓笛演奏や「みずほ鼓太鼓」の演奏、各種団体によるパザーなど多彩な催しを楽しみ、交流を深めました。

田畑実行委員長は「今年度完成した三ノ宮住宅団地を拠点として初の祭りを開催でき、うれしい。住民の力を合わせて、地域の祭りとして将来にわたって継続させていければ」と話していました。



まつりに華を添えた三ノ宮小児童の鼓笛演奏(三ノ宮住宅団地内)

### 梅田・質美の両保育所で閉園式

瑞穂地区の梅田・質美両保育所の閉園式を三月二十四日、各保育所で行いました。

近年の少子化などに伴い、両保育所では入所児童数が減少。将来を見据えて保育環境のさらなる充実を図るため、三月末で両保育所を廃止し、松山保育所へ統合しました。

梅田保育所の閉園式には、松原茂樹町長や議員、保護者、梅田地域振興会の会員など約五十人が出席。式で、松原町長は「これまで保育所の発展に尽くされてきた関係の皆様へ敬意と感謝を申し上げます」とし、統合先の松山保育所に「一日も早く慣れ、楽しい保育所生活を送られることを願う」とあいさつ。その後、入所児童らの合唱や梅田保育所のこれまでの歩みを振り返るスライド上映を行い、地域の子どもの成長を支えてきた保育施設の閉園を見届けました。

また、三月三十一日には、質美地域振興協議会(三好久男会長)主催の「質美保育所お別れ会」が質美振興センターで行われ、同地域住民ら約百三十人が参加。元保育士や卒園生など十人がそれぞれの時代の同園の様子などを懐かしく振り返り、また、入所児童らの合唱なども行われ、参加した地域住民は話や歌に耳を傾けながら、名残を惜しんでいました。



梅田保育所閉園式の様子(梅田保育所)



質美保育所お別れ会で合唱を披露する園児たち(質美保育所)

### スポーツ功労者や、選手の活躍をたたえて

平成十八年度京丹波町スポーツ表彰式を三月二十日、町中央公民館で開催。地域のスポーツ振興に力を注いできた人や、各種スポーツ大会で優秀な成績を収めた個人・団体など十一人五団体の皆さんが栄えあるスポーツ賞を受賞しました。受賞者は次の皆さん。(敬称略)

【特別栄誉賞】太石康正(世界ジュニアパワリフティング大会二位、院内)▽安井陽奈(全日本中学生ホッケー選手権大会・最優秀選手、新水戸)

【功労賞】長年、地域スポーツの振興に尽力した人  
山崎勲(二道、豊田)▽村上幸一(少年野球、須知)▽伊藤佳朋(剣道、中台)

【優秀賞・個人】岩崎栄喜雄(京都・滋賀オープン・ゴルフ選手権アマチュアの部・優勝、須知)▽上田輝(全国小学生陸上競技交流大会京都府予選百メートル五年の部・優勝、妙楽寺)▽三浦夏海(山出野)・十倉里帆(稲次)(全国少年少女カヌー大会カヤックペア・優勝)

▽藤井亮(升谷)・片山湧悟(安栖里)・岡三(位)

【優秀賞・団体】▽京都選抜女子ホッケーチーム(全日本中学生都道府県対抗十一人制ホッケー選手権大会・準優勝)▽蒲生野中女子ホッケー部(全日本中学生ホッケー選手権大会・三位など)▽京丹波町ゲートボール男子チーム(京都府民総体ゲートボールの部・優勝)▽京丹波町クラウンド・ゴルフ協会丹波支部(ねりんピック京都府大会・優勝)

【スポーツ奨励賞】京丹波町ゲートボール女子チーム(京都府民総体ゲートボールの部・三位)



松原町長(左)から表彰を受ける受賞者(町中央公民館)

### 西河内区でふるさと帰農を考える集い

三月十一日、西河内集落センターで「西河内区の帰農を考える懇談会」が行われ、同区民ら十二人が参加。懇談会では、同区の藤田正之区長があいさつした後、南丹農業改良普及センター・田中康久副所長が「ふるさと帰農の推進について」と題して講演。ふるさと帰農を推進するうえでの課題や受け入れ態勢づくりのポイントなどが紹介されました。

その後の懇談会では、参加者から、「有害鳥獣対策が重要。これがいっしょにできていなければ帰農を勧められない」「都市住民の意見を聞いてみてはどうか」などの意見が出ていました。

西河内区では昨年十二月から懇談会や検討会を五回にわたって実施。退職期を迎える団塊世代の帰農を推進する取り組みが熱心に行われています。今後は都市住民へのアンケート調査や、同区で行うイベントを情報発信するなどのPR活動を展開していきたいとしています。



講師の話に耳を傾ける参加者(西河内集落センター)

### 広報コンクールで「広報京丹波」が知事賞

このほど、平成十八年度京都広報賞(広報コンクール、京都府・京都府広報協議会主催)が決定し、組み写真の部で「広報京丹波」(第十一号、十八年九月発行)が知事賞を受賞。映像の部では、瑞穂ケーブルテレビのニュース番組「みずほウィークリー」が、京都府広報協議会会長賞を受賞しました。

受賞した広報紙は、京都府消防操法大会(昨年八月開催)での消防団の活躍ぶりを紹介(写真上)。「みずほウィークリー」(写真下)は瑞穂中の生徒の職場体験学習の模様などを紹介したものです。

この受賞を励みに、さらに充実した広報広聴活動に努めていきますので、今後いっしょに協力をお願いします。



**わたしたちの町**

人口	17,570(-57)
男	8,334(-28)
女	9,236(-29)
世帯数	6,501(+ 1)

4月1日現在 / ( )は前月比

**編集後記**

新しい季節が始まりました。入園・入学に就職、学校ではクラス替え、職場では異動があったりして、皆さんそれぞれ新しい場所で、新しい気持ちでスタートされたことと思います。編集子は引き続き、広報担当をさせていただきますことになりました。新しい気持ちで、さらに多くの人に読まれ、親しまれる紙面づくりに努めていきますので、広報活動へのご協力をお願いします。

(Y)





瑞穂中学校卒業式  
(同中体育館)



竹野小学校卒業式(同小体育館)



わちエンジェル卒園式(わちエンジェル)

思い出胸に学び舎築立つ

町立中学校の卒業証書授与式が三月十三日、各中学校で行われ、百九十八人(蒲生野九十八人、瑞穂六十二人、和知三十八人)が三年間の思い出を胸に卒業証書を手にした。

二十二日には、町立小学校の卒業証書授与式が各小学校で行われ、町内八小学校の卒業生百九十八人(竹野十四人、丹波ひかり七十二人、下山十六人、松山二十人、明俊十八人、三ノ

宮十一人、質美十人、和知三十七人)が、六年間過ごした学び舎を築立ちました。

竹野小学校の卒業証書授与式では、北村友子校長が卒業生に卒業証書を授与した後、「六年間の思い出は大きな財産。これまで支えてもらった人たちへの感謝の心を忘れず、大きく羽ばたいてほしい」と卒業生を激励しました。式の終わりには、卒業生、在校生全員で「呼びかけ」を行い、六年間の思い出を振り返るとともに、新しく始まる中学校生活への希望に胸を膨らませていました。

町立幼稚園・保育所では、須知幼稚園で三十二人、町内の六つの保育所で計九十一人が卒園しました。

今月の  
町営バス利用者

このコーナーは、町営バスの利用実態を皆さんにご理解いただくため、毎月、1カ月間の路線ごとの町営バス利用状況をお知らせしています。



3月の町営バス利用者数

( )は前月比

路線名	利用者数(人)		
	一般	生徒学生など	計
丹波和知線	784(+192)	2,214(- 855)	2,998(- 663)
丹波松山線	145(+ 36)	1,527(- 511)	1,672(- 475)
高原下山線	206(+ 12)	2,097(- 535)	2,303(- 523)
竹野線	71(+ 10)	0(- 351)	71(- 341)
小野鎌谷線	272(- 3)	634(- 201)	906(- 204)
猪鼻戸津川線	400(+ 76)	324(- 225)	724(- 149)
質美線	683(+ 32)	1,038(- 463)	1,721(- 431)
仏主線	402(+ 95)	602(- 82)	1,004(+ 13)
長瀬線	519(+ 90)	568(- 116)	1,087(- 26)
才原大簾線	214(+ 43)	1,858(- 346)	2,072(- 303)
上乙見線	66(+ 24)	1,528(- 296)	1,594(- 272)
合計	3,762(+607)	12,390(-3,981)	16,152(-3,374)

一般利用者(生徒学生など除く)数の推移

路線名	12月	1月	2月	3月
丹波和知線	785	699	592	784
丹波松山線	115	75	109	145
高原下山線	226	157	194	206
竹野線	78	43	61	71
小野鎌谷線	317	271	275	272
猪鼻戸津川線	448	324	324	400
質美線	894	675	651	683
仏主線	335	261	307	402
長瀬線	481	380	429	519
才原大簾線	188	153	171	214
上乙見線	44	37	42	66
合計	3,911	3,075	3,155	3,762